

金景工芸

■ 54

美川仏壇(下)

木地、漆塗り、箔押し、蒔絵。仏壇は、さまざまに手わざがつぎ込まれる総合工芸品である。

美川仏壇には、これらに加えて「堆墨」と呼ばれる技がある。模様が彫られた原版の上に漆の生地を敷いて、図柄の型版を起こし、文様を浮き上がらせる。幕末生まれの名工、湊屋村次郎が編み出したとされる希少な技である。

ブランドに知恵

北島仏壇(白山市美川新町)の4代目塗師、北島昭造さん(46)は語る。

「目には見えなくても、こうした先人の積み重ねの上で、私が仕事をさせてもらっている。だからこそ、下手なことはできません」

ここ10年ほど、美川仏壇はブランドを守るために知恵を絞ってきた。コストダウンの

職人の手はうそをつけない

先人の信用を守る

ために他の産地で製造しながら「美川仏壇」を名乗る業者と、厳しく向き合ってきたのである。

美川仏壇の認定書の発行。

地域団体商標(地域ブランド)

ときわ強い。

「手づくりの仏壇は価格を

下げていくことがで

きる商品ではあります

せん。ブランドを自

分たちで守る意識が

なければ、いずれ産

地は消滅してしま

う」という危機感があ

るからだ。商品の説明に力を

入れ、顧客には製作

工房に並ぶ美川仏

壇。先人の知恵の上に成り立っている

II白山市美川新町



への登録。本物の美川仏壇かどうかを見極める鑑定委員会の創設。組合をつくる43人の産地を守ろうとする意識はひ

とのである。

「お客様には、まず職人の手に触れていただく。この手が大事なんです。職人の手はうそをつけないですから」こう語る北島さんは、かつて九州に住む6代実業家の自宅に、庭一つ分の仏壇を納入した。現場で組み立てるため12人の職人が3泊4日。木地に使われているクサマキ、イチヨウ、キリの豊かな香りがあふれ、仏壇の購入に当初首をかしげていた実業家の家族が「森林浴みたい」と驚く表情を見せたことを、北島さんは忘れない。「本物

過程を見てもらい、一つの仏壇の部品一つ一つが手づくりであることを見せるのも、先人が培った「信用」を守るためにある。

震災で無償修理

東日本大震災で、宮城や茨城に住む北島さんの顧客10人前後が被災したという。北島さんが聞く限り、津波の被害

いたとい

う

顧客もいる。

「無償で修理することも考

えていました。阪神大震災もそ

うでしたから」

未曾有の災害に見舞われた人々は、大きく傷ついている。その「心の復興」に、磨いてきた技が役立つことを北島さんは願っている。

(宮下岳丈)

を追求する気持ちが確かに伝わったからだ。

仏間のない家が増え、市場の縮小を感じるが、「お客様の感動は、生き残っていくためのキーワードになると思う」。